

第二回 青の国若山牧水短歌大会 入賞作品

◇青の国短歌大賞◇

鋤田 知子（宮崎県）

歌の息をふうはり包みし牧水の文字すつくりと二行に立てり

◇小学生の部◇

【最優秀賞】

松尾 育美（日向市立財光寺小学校4年）

妹がおそってきたよこわいなあ暴力反対でもかわいい

【優秀賞】

田爪 仁（西米良村立村所小学校3年）

タンポポのぎざぎざの葉がかっこいいふわふわのたねなかまをふやす

森岡 美帆（宮崎市立加納小学校5年）

草ぼうぼう文句言いつつ抜きまくる家庭訪問終わった後で

【優良賞】

海野 直大（日向市立寺迫小学校2年）

じいちゃんがふろに入るぞさそってきたふろの中ではないしょの話

黒木 更紗（日向市立東郷学園6年）

毎朝のおはよう一言言うだけで教室がらりと一変するんだ

小林 心大（門川町立五十鈴小学校4年）

緑の葉虫にとってはごちそうだぼくのごちそうやき肉とすし

【佳作】

興梠 なずな（高千穂町立上野小学校6年）

手紙よりはっきり言える手段がある相手の目を見て話すこと

西村 柁（高千穂町立上野小学校6年）

ベットがね「おいでおいで」ときそってるそれでも負けるな宿題をする

末廣 こころ（延岡市立黒岩小学校2年）

なめくじをとう校中に見つけたよしよっ角ぴくぴくうごいていたよ

河野 優（日向市立寺迫小学校2年）

さんすうでかけざんするよたのしみだきょうかしよこっそりさきまで見ようか

上野 瞬（日向市立坪谷小学校4年）

母さんが早く起きろとさけんでるゆめでは早起きしているのにな

田邊 優香（日向市立東郷学園4年）

のいちごが家の回りにあるんだよとてもあまいよありさんいっぱい

長友 まい（日向市立財光寺小学校4年）

ハムスターにぼしをあげると喜ぶよあげなかったらはらかいて寝る

前崎 大河（門川町立西門川小学校2年）

たん生日こうちようしつできゅうしよくだ話いっぱいおなかいっぱい

青山 豪騎（美郷町立美郷南学園5年）

とにかくねカエルが鳴いて大合唱どうにかしようと思うぼくと父

藤本 結佳里（美郷町立美郷南学園6年）

放課後に夕焼け見ながら頬をつき今日も終わりだ独り言言う

日高 光貴（宮崎市立宮崎南小学校6年）

バムバムとドリブルしながら考える敵のマークが甘くなるのを

野崎 理央（宮崎市立加納小学校3年）

しおひがりみんな下向きとっているぼくも見つけたアサリを三こ

森 飛翔（宮崎市立加納小学校3年）

青虫がキャベツを食べてパンパンだ早くとび出せさなぎになって

染田 凌（宮崎市立加納小学校6年）

登下校一年生の妹がいつもぼくの手にぎってくるよ

松比良 莉乃（宮崎市立加納小学校6年）

私の部屋物がいっぱい何でだろうそれは私の六年間

川越 裕日（宮崎市立広瀬西小学校6年）

最後までうすだいこ踊りがんばった曲がとまっても踊り続けた

森屋 滉斗（宮崎市立広瀬西小学校6年）

稲かりをやってやろうとはりきってやってみてわかる苦労の数々

竹脇 翔海（都城市立菓子野小学校3年）

親鳥がヒナをまもる親なんだどうして生むか分からなくても

水上 蒼詩（都城市立菓子野小学校3年）

やって来たあいうえ小川に春が来たいろんな生き物目をさますんだ

植村 彩乃（小林市立須木小学校5年）

れんげ草あかむらさきにしろのいろ私の心もあかるくなるよ

◇中学生の部◇

【最優秀賞】

坂本 美優（延岡市立南中学校2年）

秋になり空舞うトンボカタカナを並べるように秋の空を飛ぶ

【優秀賞】

小山 琳（門川町立門川中学校2年）

身長がどんどん伸びて変わってく一センチごと私の世界

上山 裕生（私立宮崎第一中学校2年）

大会に出場するたび慣れてきてなんだかトラックちぢんだ気がする

【優良賞】

橋倉 聖（2年）

信号が赤になるとび頬染まる二人の距離が近くなってる

渡邊 香菜（延岡市立南中学校2年）

エアコンの下で口開け眠る父いつもありがと私のヒーロー

加藤 ひなの（県立宮崎西高等学校付属中学校2年）

にんじんも心の内でさけんでる残されるためには生まれてないと

【佳作】

本田 紀香（五ヶ瀬町立三ヶ所中学校2年）

先輩を目で追う私のくせなのになぜか一度も合わない視線

福田 亜子（延岡市立恒富中学校2年）

今日こそは邪魔をしないで眠気さん目が閉店の午後の授業

深川 佳紫（延岡市立延岡中学校3年）

君のため髪をのばした夏祭り花火の音が聞こえるまでは

木原 和奏（延岡市立南中学校2年）

あんたにさ言いたいことが一つある「ケンカするほど仲がいい」って

熊谷 輝（延岡市立南中学校2年）

家の中けんかばかり僕の家そして思うはこれこそ家族

寺地 美咲（延岡市立南中学校2年）

「おやすみ」と家族の声を送り出し一人残ったテスト前日

橋倉 聖佳（延岡市立南中学校2年）

先生の「うまくなった」の一言で私のボールはネットを越える

内田 真綾（私立尚学館中学校2年）

弓道でまっすぐに矢が放たれて的に当たった小さな幸せ

米満 健（私立尚学館中学校3年）

いそがしいから手伝えと言う母の一番のむだは長電話かな

黒木 瑛利那（日向市立美々津中学校3年）

「君がスキ」君が喜ぶ顔見ると心がふんわりマシユマロみたい

黒田 美来（美郷町立美郷南学園7年）

風にゆれわたしに手をふる田のイネよイネの思いが心に響く

工藤 楓（私立宮崎第一中学校3年）

母の味見よう見まねで作ってみるがひとつ足りぬは母の愛情

赤塚 友紀（私立鵬翔中学校1年）

太陽の光が部屋にふり注ぎ白いノートが金色に変わる

内山 智浩（私立鵬翔中学校3年）

出入口横から見ると恐しい人のみこんで人はきだして

保田 葉月（私立宮崎学園中学校1年）

ゴウゴウと流れる滝を眺めるとつらい気持ちも滝に流れる

長友 樹（私立宮崎日本大学中学校2年）

吹奏楽今年も始まるコンクール涙を流した去年をばねに

伊藤 優花（私立宮崎日本大学中学校3年）

ポケットに手を入れ歩く冬の癖今だなおらずもう夏が来る

高山 圭太郎（都城市立妻ヶ丘中学校1年）

食べたいな土星リングのかき氷太陽のパンに月光のカルピス

南 友萌（都城市立妻ヶ丘中学校1年）

ぶかぶかの制服を着てスタートだ三年後にはどうなってるかな

吉川 葉月（都城市立庄内中学校2年）

ありがとうお世話になった古新聞新しくなってまたよろしくね

◇高校生の部◇

【最優秀賞】

黒木 遼佳（県立宮崎西高等学校2年）

別れようその一言で落ち込んだ瀬をはやみと願うこの頃

【優秀賞】

木宮 望（私立延岡学園尚学館高等部2年）

暗闇で気付かれてないこの想い隠しているのに見透かす月光

田中 頼波（県立延岡高等学校3年）

この間君としりとりした時に「す」がくる毎にドキドキしました

【優良賞】

佐藤 陽平（県立日向工業高等学校1年）

一度でものぞいてみたい人の目で他者から映る自分の姿

岩元 葵（県立都城西高等学校2年）

母の日に一本の電話鳴りひびく遠くに行っても変わらない兄

野田 真純（県立都城西高等学校2年）

もう一度聞きたい祖母の田植え歌今歌うのは母と私

【佳作】

甲斐 文香（県立高千穂高等学校1年）

君の横通ると胸が「きゅん」となるそれが恋だと知らぬふりした

脇本 紗梨（私立延岡学園尚学館高等部4年）

大好きな君が笑顔で「ねえ聞いて」今から何を話してくれるの？

岡田 優（県立延岡高等学校1年）

授業中ボクの視線の先のキミキミの視線の先のアイツ

松田 美咲（県立延岡高等学校1年）

真っすぐにキレイな気持ちすごいけどそれは時に残酷だろう

湯川 遥希（県立延岡高等学校1年）

消しゴムでなかったことにはできないしだったらいつそ描き足せばいい

甲斐 智美（県立延岡高等学校3年）

地面見てア리가小さくうつるけど空を見てみりゃジブンがちっぽけ

本庄 美貴（県立延岡高等学校3年）

青春ね大人はみんな言うけれど今の私はよく分からない

松崎 慎（県立延岡工業高等学校1年）

授業中居眠りしていて怒られる夢の中ではほめられている

松本 瑞生（県立延岡工業高等学校1年）

分かれ道左右の違う風景をどちらもみたくてまん中をいく

吉田 健人（県立延岡工業高等学校1年）

くやしくて大の字に寝た草の上見上げた空も僕を見下ろす

坂元 佑輔（県立延岡工業高等学校2年）

旋盤で誤差なく作る難しさ今日も一人で回しています

坂元 麻耶（県立延岡工業高等学校3年）

母の顔父の性格祖母の髪足し算すると私になった

山下 翔大（県立延岡工業高等学校3年）

夏休みプールサイドに腰かけたキミのビキニに失神寸前

藤原 菜緒（県立富島高等学校1年）

写真部は思い出やさん今日もみんなの笑顔をパシャリ

蛭原 一真（県立富島高等学校3年）

嬉しいよあなたと過ごすこの時間だけどさみしい恋の相談

久永 成美（県立日向高等学校1年）

「無理するな」友に言われたその言葉今までで一番救われました

猪股 穂波（県立日向高等学校3年）

ありがとう感謝してるが恥ずかしい選手たちより叫ぶお父さん

山田 捺加（県立高鍋高等学校1年）

わたしの手包んでくれるのはふわふわの使い古した母親の手

海老原 秀生（県立宮崎西高等学校2年）

夜中二時部屋を出てからふと気付くりビングで仕事している母に

浜田 彩華（都城聖下ミニコ学園高等学校3年）

もうすぐだあなたに会える時間まで女磨いて会いに行きます

◇一般の部 自由題◇

【最優秀賞】

松元 雅子（宮崎県）

「教師の」と打てば「使命」と「不祥事」がたちまち浮かぶネットの湖面に

【優秀賞】

黒木 伊知緒（宮崎県）

逃散の罪負ひはてし村長をとむらふ寺の僧まだ若し

田中 英子（宮崎県）

セナ、リン、ルカ男の子の名が流れ出す湯気の向こうの小二の娘の口

【優良賞】

狩集 祥子（東京都）

ケータイは悔いと希望を封じ込め目蓋を閉じてひそかに眠る

岸 和子（熊本県）

行き交はす人の仰がぬ満月がわが住む町を隈なく照らす

植村 東紀子（宮崎県）

刈らるるを恐ることなき畦の草青々茂り吾に挑みぬ

【佳作】

高橋 敬一（茨城県）

寄生虫星のごとくに身にまとい重き^{けだもの}獣は赤道を過ぐ

宮内 健治（千葉県）

吾が庭の色とりどりに咲く花の中に埋もれしお金の成る木

辻 房枝（神奈川県）

開発の如何なる都合かこの線路ひとつの良き川いくたびも渡る

平野 貞江（神奈川県）

子に妻に強い男を生きぬいて母のもとへといそぎし人よ

古知 勺雨（福井県）

咲く花の高さに風は渡りくる風がひかればわが窓ひかる

清水 良郎（愛知県）

手洗に木のサンダルの響きゐて林間学舎の窓の朝焼

木内 美由紀（兵庫県）

「まじやバイ」五文字のメール打つ君と牧水なんか語ってみたい

戸江 千里（兵庫県）

「勉強」と「受験」が飛び交う教室の窓の向こうに続く空の青

西村 由佳里（広島県）

手のほくら眺めておればさわさわと恋い初めし日の空よみがえる

木下 美樹枝（佐賀県）

春風が重いかかとを持ち上げるふふくすぐったい君の吐息のよう

猪俣 文恵（宮崎県）

夫逝きてはや十五年障害の子とどれほどの会話深めし

今村 美智子（宮崎県）

その妻をマリアのようだと酔って言うハンディある子を育てる二人

小川 とく子（宮崎県）

上海の高層ホテルの十二階アイロンかける一人旅かな

川添 ゆかり（宮崎県）

あおばずく
青葉木菟今夜はおまえにつき合おう夜が明けるまで鳴き通さんか

首藤 志保子（宮崎県）

焼酎をロックで飲みし子の去りて製氷の音なき冷蔵庫

中瀬 房子（宮崎県）

山せみのかくれ家なるや滝つ瀬のしぶきを浴びて巖に消えゆく

中野 郷史（宮崎県）

君と打つボールがこんなに弾むなら私はずっとコートに立ちたい

仁田脇 昭（宮崎県）

鍬先の地虫をねだるじょうびたき今年は遂に姿を見せず

毛利 寿美子（宮崎県）

歩道橋駆けのぼり行く青の群れ試合の児等は天を目ざすよ

田村 稔（宮崎県）

大相撲の星取り表のスクラップ栃・若の居て五十年を経ぬ

◇一般の部 題詠「日」◇

【最優秀賞】

長友 善美（宮崎県）

生れてより日の浅き駒野火あとの草に母馬の乳房突き上ぐ

【優秀賞】

伊東 一憲（埼玉県）

冠山朝日を負へば白じろと祖霊のごとく山桜みゆ

原田 一郎（宮崎県）

父の日にと禁煙パイプを購ひし 柩にはいれずタバコを入るる

【優良賞】

清水 良郎（愛知県）

両手よりこぼるるほどの種の絵を描いてひまはり日記の終はり

中井 正男（大阪府）

「空^{あき}あり」と読めない子らは首かしげ毎日通る駐車場横

那須 文美（宮崎県）

海の青背にしてさかな売る老婆日なが猫語で猫と話せり

【佳作】

槇 あやめ（東京都）

一日の終わりに君は誰想い眠りにつくのか知りたい四月

辻 房枝（神奈川県）

見届けん春夕焼けの一部始終或る日は廊下の果ての窓から

野中 泰佑（高知県）

日暮れまで豚舎にて働きし祖父の遺骨は真珠の如し

田代 信也（福岡県）

病癒え帰宅せし日の古い妻のほとけ顔して姿見に寄る

吉田 尚子（熊本県）

アパートを取り壊す音響きいてかささぎ今日は巣つくりに来ず

猪俣 文恵（宮崎県）

寝ねぎはに白き錠剤二錠のみてひとりの私今日も終はりぬ

上之蘭 信子（宮崎県）

在りし日のままに並びぬ椅子二つ狭き厨の父母の席ちはは

阪元 かつこ（宮崎県）

柿の木の日傘の下に切られゆくおかつば頭はかの日の私

櫻井 喜美子（宮崎県）

「さよなら」のつもりか痛い程指を握りぬ夫は終の日

高野 小百合（宮崎県）

車椅子押してもらいて街路樹の桜に触れしを日記に書き込む

高松 恵美子（宮崎県）

馬穴半分雑草取るを日課とし終はりて夫は麦藁を脱ぐ

中野 郷史（宮崎県）

記念日にわが煮込みたる猪汁の熱きをあてに酌む酒の味

長嶺 恭子（宮崎県）

父親になる日近づく長男は「竜」と「龍」の字書きて見てをり

間 貞雄（宮崎県）

春の日が射す鏡台に化粧品あまた並びてあるじ還らず

間 瑞枝（宮崎県）

「心からお待ちします」と笑まいつつ日ごとの見舞を促す夫

牧 ハツ子（宮崎県）

三十年出番を待ちし武者人形明日は初節句床の間におく

又木 康子（宮崎県）

障害を持つ子は「母の日」生まれなり意味教えつつ生きている我

松元 雅子（宮崎県）

改行キーかちりと押して日曜の夜に始める授業の準備

田村 稔（宮崎県）

五十年店持ちてなお髪刈りに来てくるかなこの今日の客

萬福 平次（鹿児島県）

今日の日の良い事だけを切り取りて話してやりぬ寝た切りの妻に